

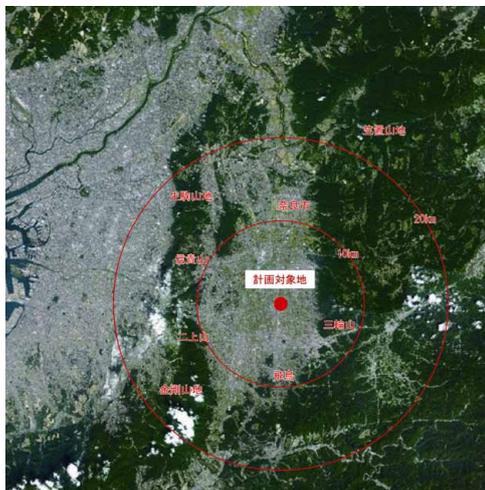
## 第2章 田原本町の概要

### 1. 自然的環境

#### (1) 位置と地形

田原本町は、奈良県北西部にある奈良盆地（東西約15km、南北約20km）の中央に位置し、北部は三宅町、北東部は天理市、東南部は桜井市、南部は橿原市、西部は広陵町に隣接している。標高は約44～60mで、北西部の大字黒田付近が最も低く南東部の大字味間に向かって高くなっている。面積は21.1㎢（東西5.8km、南北6.1km）の町である。

河川は、町の東部を「大和川（初瀬川）」、中央部を「寺川」、西部を「飛鳥川」「曾我川」の一級河川が北流し、町全体は、これらの河川にはさまれた平坦地として形成されている。



第2-1図 保存管理計画対象地

#### (2) 景観変遷

奈良盆地南東部の主要河川である初瀬川は、条里の乱れや集落立地、発掘調査の成果から、古代以前には田原本町域の幅広い範囲を南東から北西方向に流れていたことが判明している。寺川や飛鳥川などほかの河川はいずれも条里方向に沿う形で流れており、このような状況から、現在の景観は中世から近世に形成されたことがわかる。

田原本町から四方を望めば、東方に龍王山や三輪山、西方には生駒山や二上山、葛城山・金剛山など歴史的に重要な山塊がある。

町内においては、大きく分けて2つの景観が存在する。1つは慶安元(1648)年に陣屋が築かれ、それに沿うように中街道が縦断したことから商業が発達し形成された町屋の景観である。もう1つは、古代から中世にかけて整備された条里制による区画が継承された農村、田園の景観である。これらの景観は、古代から今日まで、地域の人々の生活、生業、風土により形成されてきたものであり「文化的景観」とみなすことができる。



第2-2図 旧初瀬川の流域



第2-3図 唐古・鍵遺跡と大和青垣

## 2. 社会的環境

### (1) 人口

昭和31(1956)年に、「(旧)田原本町」「多村」「川東村」「都村」「平野村」の5町村が合併して現在の田原本町が発足した。発足当時の人口は約2万人であった。

昭和60(1985)年には約3万人を超え、現在の人口は約33,000人であるが、ここ最近では年々減少傾向である。年少人口が減少傾向である反面、高齢者人口は増加傾向であり、少子高齢社会が進行している。また、世帯数は増加を続けており、核家族化や単身世帯の増加がうかがえる。

### (2) 交通・アクセス

田原本町には、広域的交通を担う幹線道路として、国道24号、京奈和自動車道、主要地方道桜井田原本王寺線などが通っている。

一方、鉄道においては、町の中心部を近鉄樫原線が南北に、また近鉄田原本線が西田原本駅を起点にして北西方面に通っている。本町へは、近鉄線を利用し、京都駅から約1時間、神戸三宮駅から約1時間40分で到着する。

### (3) 産業

就業人口の推移では、昭和60(1985)年から平成7(1995)年にかけて増加傾向であったが、平成7(1995)年以降は減少傾向にある。特に、第1次産業の就業人口が昭和60(1985)年1,138人であったが平成22(2010)年には498人に減少している。

産業別就業人口全体に対し各産業の占める割合は、第1次産業が約3.5%(昭和60・1985年約8.5%)、第2次産業が約26.5%(同約34.8%)、第3次産業が65.5%(同約54.9%)、その他約4.5%(同1.8%)であり、国全体の傾向と同様に第3次産業が増加している[以上参照:平成22(2010)年国勢調査]。

## 3. 田原本町の歴史と文化財

田原本町には、縄文時代から近世にかけて170余りの遺跡が存在している。

内訳は、縄文遺跡-5遺跡、弥生遺跡-33遺跡、古墳-71遺跡、古墳～古代遺物-9遺跡、古道-4遺跡、中世居館-16遺跡、社寺-13遺跡、近世遺跡-6遺跡である[遺跡数は複合遺跡をダブルカウント]。

また国の重要文化財指定物件は7件(史跡1、考古資料1、仏像4、絵画1)、県指定文化財は6件(史跡1、建造物2、絵画1、天然記念物2)、町指定文化財は6件(考古資料2、仏像1、古文書3)である。